

第2回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会

～平成20年度「土湯の森」づくり事業計画を決定～

旧最上川スキー場跡地の自然再生を推進していくため、5月1日、戸沢村役場において協議会を開催し、昨年度の事業結果を報告するとともに平成20年度「土湯の森」づくりについて、承認を得ました。

昨年度は、植生の回復に向けた取組の初年度にあたり、刈り払いや植生のモニタリング調査のほか、今年度植栽する稚樹の採取を行政（戸沢村、最上支署、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター）と住民が協力して行ったことが報告されました。

二年目となる今年度の事業は、やまがたみどり環境税を活用した「みどり環境交付金事業」として昨年採取したブナ等の稚樹の植栽を皮切りに、刈り払いなど昨年度実施した取組を継続して行うことを決めたところです。

前回の協議会での意見を受けて実施した最上、庄内地方の小中学校の森林環境教育アンケート調査では、小学校高学年から中学一年生にかけて森林環境教育に取り組んでいる割合が高いことや自然観察やネイチャーゲームなど楽しみながら学ぶことに重点をおいたもの、森林の働きに関する環境教育への要望が多いことも説明されました。また、スキー場跡地の活用については、多くの学校で移動距離が大きな障害とされている一方で、参加を期待できる学校もあることが報告されたところです。

委員からいただいた「昨年の活動やアンケートの結果を参考に対応をお願いします」「年間の計画を決めた方が良い」「活動の報告や意見をもらうホームページのデザインの検討をしたらどうか」などの意見を踏まえ、今年度の取組に向けて準備を進めることとしています。

平成20年5月2日（金）山形新聞掲載記事

事業計画を決める 戸沢村・緑の回廊 自然再生実施協	戸沢村高屋の旧最上川スキー場跡地で自然再生に取り組み「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会（会長・高橋教夫山形大農学部教授）が一日、同村役場で開かれ、二〇〇八年度の森づくり事業計画を決めた。同協議会は〇七年五月に発足。地区住民や職員ら十一人で構成する。東北森林管理
局が設定した「緑の回廊」に含まれるスキー場跡地の植生を回復させようと、行政と住民が協力して活動している。〇七年度は、植生のモニタリング調査や、地元小学生とともに近くの山で苗木の採取などを行った。	環境教育アンケートの結果を報告。森林環境教育に取り組んでいるのは小学五、六年生と中学一年生が多く、内容は枝払いなどの森林保育作業や、植物や昆虫の観察が多いことが分かったと説明した。委員からは「アンケート結果を本年度のプログラムに生かしたい」「植栽を子どもたちに頼むなら、穴掘りなどの準備をしっかりとしないと駄目だ」「ホームページを立ち上げてはどうか」などの意見が出た。